

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合 WEEKLY 2760 地区 REPORT

LIGHT UP ROTARY

ロータリーに輝きを

2014-2015年度 国際ロータリー会長 ゲイリー C. K. ホアン



2014-2015年度

会長:吉田正道 幹事:亀井敏勝 クラブ会報委員長:関 貴之

創立/1972年3月15日 例会日/水曜日 12:30~13:30

例会場/ウェスティンゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の町3-19 〒451-8551

事務局/TEL 052-684-6591 FAX 052-684-6592

2014 August 6

■ 2014~2015 年度方針

「職業奉仕の原点に立ち返り、いきいき(粹・意気)ロータリーライフ」

NO.6

例会報告

●第2048回例会 平成26年8月6日(水)晴

●8月は会員増強及び拡大月間

●君が代

●ロータリーソング 奉仕の理想

●出席報告 会員 104 名中 出席62名
(93)

出席率66.67% 修正出席率74.44%
(7月23日分)

●ビジター紹介

渡辺 英信君(名古屋東RC) 外2名

●ゲスト紹介

・ゲストスピーカー

日本大学教授(元ウクライナ大使)

黒川 祐次氏

・米山奨学生 マコヴニコバ ヤナさん

・元米山奨学生 デバコタ ジバナト君

●ニコボックス

「ロータリーデーお世話になります。」

近藤直樹君(名古屋中RC)

長谷川周義君(名古屋錦RC)

「昨日のマコヴニコバ・ヤナさん、デバコタ君の歓送迎会は、奨学生らの歓喜に満ちた表情で楽しんだ様子でした。参加された皆様による温かなご厚意に感謝致します。」

前年度カウンセラー 川畑 元君

現カウンセラー 服部雅紀君

本日のニコボックス	2件	14,000円
累 計	31件	488,000円

亀井敏勝幹事報告

▽当クラブ行事予定

・8月13日(水) 規定休日のため、休会です。

・8月27日(水) 例会終了後、理事会を行います。

・9月10日(水) ガバナー補佐訪問日、例会終了後、

ガバナー補佐を交えて、クラブアッセンブリーを行います。理事、役員、各委員長、新入会員のご出席をお願い致します。

※本日、ご案内を配布しております。

・9月24日(水) ガバナー公式訪問日です。尚、例会終了後、理事会を行います。

※10月29日(水)、例会終了後に予定しておりました理事会は、吉田会長欠席のため、10月22日(水)、例会終了後に行います。

吉田正道会長挨拶

“国歌”

本日は葉月最初の例会です。月初の例会には国歌「君が代」を斉唱いたします。明治になって、近代西洋において儀礼上欠かせないことから日本の国歌としてこの「君が代」を明治13年の楽曲完成を経て、明治21年当時の海軍省が諸外国に配布、明治26年には文部省が官報にて公布。ただし、法律として制定されたのは、平成11年。もとは平安時代に詠まれた和歌で、「君が代」の解釈についても、時代時代で異なるようです。歌詞は、明治維新時、薩摩の大山巖が英国の軍楽隊長の「国歌が必要」との進言で「薩摩琵琶歌」の楽曲「蓬莱山」の一節から選定し、楽曲をつけたとの説が有力。制定の由来、歌詞の解釈論はさておいて、この君が代は言祝ぎの歌であります。おだやかな平和の歌であります。それに比べて各国の国歌はどうなっているのか。国際秩序を統括する国連常任理事国5か国の国歌を見てみましょう。

まずは英国。国歌は「God Save The Queen」。その歌詞の一節。「..おお主よ、我等が神は立ち上がり、敵を蹴散らし、潰走させ、姑息な罨をも打ち破りたもうた...。」「...彼が反乱を鎮めんことを願わん、激流の如きスコットランドの反乱を打ち破らん、神よ我等が国王を救いたまえ!。」

次に米国。「星条旗よ永遠なれ」。その一節。「...危難の中、城壁の上に雄々しく翻(ひるがえ)る、大き縞に輝く星々を我々は目にした、砲弾が赤く光を放ち宙で炸裂する中、我等の旗は夜通し翻っていた。ああ、星条旗はまだたなびいているか?」

つづいてフランス。「ラ・マルセイエーズ」。「...暴君の血まみれの旗が掲げられた、血まみれの旗が掲げられた、聞こえるか 戦場の残忍な敵兵の咆

哮を？奴らは我らの元に来て我らの子と妻の 喉を掻き切る！」

つづいてお隣の中国。「義勇軍行進曲」です。「起て！ 奴隷となることを望まぬ人びとよ！ 我らが血肉で築こう新たな長城を！ 中華民族に最大の危機せまる、一人ひとりが最後の雄叫びをあげる時だ。起て！ 起て！ 起て！ 我々すべてが心をつにして、敵の砲火をついて進め！ 敵の砲火をついて進め！ 進め！ 進め！ 進め！」

最後にロシアですが、旧ソ連の国歌を紹介します。「祖国は我らのために」。

「我々の軍は戦いによって我々を成長させ

卑劣な侵略者を道から一掃する！ 大戦によって我々は世代の運命を決定し我々が我が祖国に栄光をもたらそう！」

現代、ロシア国歌。「ロシア、聖なる我らの国よ、ロシア、愛しき我らの国よ、力強き意思は、大いなる光栄は、汝が持てる物は世々にあり！」

如何でしょうか？ 皆さん。世界一美しい国歌、「君が代」のなんと平和なことか！

卓 話

ウクライナ情勢 ～日本の外交にとっての教訓～

日本大学国際関係学部教授（元ウクライナ大使）

黒川 祐次



今回のウクライナの問題は、単に遠いヨーロッパの事件というだけではなく、世界全体、そして日本をめぐる東アジアの情勢にとってもいろいろ考えさせる問題を含んでいる。ここでは、ロシアの武力による制圧の下でなされたクリミア併合が日本の外交にとってどのような教訓を与えてくれるのかについて以下の7点を指摘したい。

1. 大国の行動パターンを再認識する

大国の力の根源は軍事力であることがあらためてあからさまにされた。かかる大国にとっては、法や道義は自分に有利な場合にのみ援用される。ダブルスタンダード、ご都合主義は意に介さない。また大国は力を背景に周辺の中小国に威嚇的態度をとり、干渉することを当然と考え、それが大国の権利だと信じている。しかも大国は宣伝力が強いので小国の言い分はかき消されがちになる。結局、大国と対立した非大国は常に不利な対応を余儀なくされることを覚悟しておかなければならない。

2. 同盟のない国の悲劇

武力行使を厭わない大国の隣にある中小国は強力な同盟に入っていないと危ない。誰も大国相手にリスクをとりたくないの、同盟に入っていない国を本気で助けてくれない。

3. 国連の限界を示す

小国間の問題は国連で解決をつけることが可能であるが、大国（安保理常任理事国）が「核心的利益」と考える問題では無力であることがあらためて実証

された。たとえ日本が大国から武力侵攻を受けても、国連はその大国の拒否権行使で何もできない。尖閣を抱える日本としても他人事ではない。日本は国連の限界をよく覚悟しておくべきである。

4. G7の再認識

今回は役に立たなかった国連の代わりにG7（先進国首脳会議）がそれなりの役割を果たした。もしG7がなかったとしたらロシアは武力で他国の領土を取っても何の「お咎め」もないことになった。日本はG'7を大事にすべきである。日本は安保理常任理事国に入っていないので一層重要である。

G7からロシアを外すと、構成国はすべて価値観を共有する国となり、G'7の足並みが揃ってよい。2008年にロシアがグルジアに侵攻した時はロシアがG8に入っていたのでG8は何もできなかった。

5. 米国のリーダーシップとEUの限界

オバマの指導力はシリア問題以来さんざん批判されてきたが、しり込みするEUを引っ張ってG7をここまでもってきたのは米国のリーダーシップによるものである。つまり、世界の秩序維持・安全保障の問題では、多分に依然として米国がどこまでリーダーシップを発揮するかにかかっていることを再認識させた。他方、EUは個々の国の経済的利害への考慮から統一した強い態度を取れず、国家の連合体の限界を示した。

6. 日露関係

まず大原則（武力による領土の併合は認めない）があって、それから個別利益（日露関係、北方領土問題、エネルギー等）とのバランスを考えるべきものである。その順序を間違えると、米国より日本のインテグリティを疑われる。また原則を曲げてまでロシアの歓心を買おうとすることは、短期的にはロシアを喜ばせるが、同時にロシアは日本を組みしやすしと見るので、交渉上も得になるとは限らない。

加えて、そもそも今次クリミア編入と北方領土とは、ロシアの武力によって不法に奪取された地域であるという点では同じ性質の問題であり、一方でクリミア問題には全く目をつむって、他方で北方領土は法と正義にもとるから返せと言うことはつじつまが合わない。

7. 日本とウクライナの関係

理不尽な大国の隣にある非大国として日本とウクライナは同じ位置にある。日本もいつ同様な境遇になるかもしれないので、かかる場合には国際社会が非大国をサポートするような環境・先例を作り出すことに力を貸すべきである。

なお、ウクライナ人はきわめて親日的である。ポロシェンコ新ウクライナ大統領も親日的で、2度訪日している。尊敬する世界の首脳として安倍晋三、メルケル、クリボウスカイト・リトアニア大統領の3人を挙げている。

例会	月日	今後の予定
第2049回	8.20	地区ロータリー財団委員会 吉原孝彦副委員長（刈谷RC） 「補助金、資金推進について」

○このウィクリーは再生紙を使用しております。